

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	医療機関との連携事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	03040110				
担当部署	健康福祉部	東部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	依田 利文			連絡先	82-0026				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	01	第1章 お互いに支えあい、その人らしく暮らせるまちづくり							
			施策	04	第4節 認知症施策の充実								
			細施策	02	相談機関と医療サービスの充実								
			事務事業	05	医療機関との連携事業								
	予算事業名			会計コード	001	款	03	項	01	目	09	事業	03
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	身近な総合相談窓口として、高齢者の相談受付・訪問活動などを通じ生活や介護に不安を持つ高齢者及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、必要な支援やサービスが迅速かつ適切に提供されるように調整を行う。 本事業は、今後の高齢者介護の中心の課題となる「認知症高齢者」への対応として、認知症相談医の周知や専門医との連携を行うものである。 なお、本事業は、「高齢者に関する相談及び支援事業」に包含されている事業である。											
	現状と背景 （どうして）	高齢者及び高齢者を抱える世帯は、生活・介護上の不安など多くの悩みや問題をかかえている。高齢者が望む「生まれ育った地域での生活・在宅介護」を実現するためには様々な支援が必要であり、それらに迅速・適切に対応するためには実態把握が必要である。											
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	玉川・豊平・泉野地区にお住まいの支援を必要とする高齢者及びその家族（介護者）										
		対象	同上										
		意図	相談・訪問を通じ、高齢者本人及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、それらに迅速・適切な対応を行うことで、安心して地域・在宅での生活を送ることができるよう支援する。										
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の抱える問題やニーズを把握するため、窓口及び訪問による相談・情報提供を行う。</li> <li>・把握した問題に応じた適切な対応を検討し、ニーズにあったサービスの紹介・事業者の情報提供・サービス利用に至るまでの調整を行う。</li> <li>・関係諸機関や事業者との情報交換・連携を密に行い、共に問題解決する意識をもちながら、在宅生活の支援にあたる。</li> <li>・サービス導入後の状況把握を定期的に行い、対象者がより自立的、満足感を持って生活出来るよう支援する。</li> </ul>											
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		高齢者及びその家族からの相談	相談件数	件	実際に電話や来所にて相談を受けた件数								
		高齢者及びその家族への訪問	訪問件数	件	実際に訪問をした件数								
	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	サービスや方針が決定された件数	方針決定率	%	方針決定件数÷相談・訪問件数				100					

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円					
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円					
	職員数						
	正規職員	人	0.80	0.80	0.80	0.80	
	嘱託職員	人					
臨時職員	人	0.20	0.20	0.20			
合計	人	1.00	1.00	1.00	0.80		
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	-	
活動指標	相談件数	目標	件				
		実績	件	339	393	428	412
	訪問件数	目標	件				
		実績	件	166	274	243	286
	-	達成率	%	-	-	-	-
		目標	件				
-	実績	件					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	方針決定率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100	100
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	目標	%					
-	実績	%					
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	医療機関との連携事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	03040110
担当部署	健康福祉部	東部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	依田利文	連絡先	82-0026

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価										
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充		②	⑤	⑦
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）						現 状 維 持		③	⑥	⑨
						縮 小		④	⑧	⑩
						休 廃 止	①			
					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					

評価年度	
------	--

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定		
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4
	チェック					4					レ	3				

評 価 課 題 （ C H E C K ）	高 齢 者 の 独 居 ・ 高 齢 者 世 帯 が 年 々 増 加 傾 向 に あり、対 象 者 の 増 加 に 伴 う 更 な る 市 民 ニーズ の 多 様 化 が 予 想 さ れ る。市 民 が 求 め て い る 事 や サー ビ ス に 対 し、民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 ・ 地 域 生 活 支 援 係 等 諸 団 体 と の 連 携 ・ 連 携 を い か に 密 に でき、提 供 で き る か が 課 題 で あ る。										記 号 の 定 義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定					B					
	前年度評価シート整理番号										

改 革 ・ 改 善 策 （ A C T I O N ）	細 施 策 評 価 前										細 施 策 評 価 後									
	成 果 的 拡 充		②	⑤	レ	⑦	成 果 的 拡 充				レ									
	現 状 維 持		③	⑥		⑨	現 状 維 持													
縮 小		④	⑧		⑩	縮 小														
休 廃 止	①					休 廃 止														
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性															
介 護 保 険 の 対 応 以 外 の 高 齢 者 の 相 談 は 多 様 で あ る。独 居、高 齢 世 帯 の 増 加 で 様 々 な 諸 問 題 が あ る。民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 地 域 生 活 支 援 係 ・ 諸 団 体 と の 連 携 は よ り 必 要 で あ る。相 談 支 援 事 業 の 充 実 を よ り 強 化 し、在 宅 生 活 が 継 続 で き る よ う 取 り 組 ん で い く。										介 護 保 険 の 対 応 以 外 の 高 齢 者 の 相 談 は 多 様 で あ る。独 居、高 齢 世 帯 の 増 加 で 様 々 な 諸 問 題 が あ る。民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 地 域 生 活 支 援 係 ・ 諸 団 体 と の 連 携 は よ り 必 要 で あ る。相 談 支 援 事 業 の 充 実 を よ り 強 化 し、在 宅 生 活 が 継 続 で き る よ う 取 り 組 ん で い く。										

最終評価年月日	平成28年5月19日	最終評価責任者	東部保健福祉サービスセンター長	依田利文
---------	------------	---------	-----------------	------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	医療機関との連携事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	03050110				
担当部署	健康福祉部	西部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	清水 利恵			連絡先	82-0073				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	01	第1章 お互いに支えあい、その人らしく暮らせるまちづくり							
				施策	04	第4節 認知症施策の充実							
				細施策	02	相談機関と医療サービスの充実							
				事務事業	05	医療機関との連携事業							
	予算事業名	西部保健福祉サービスセンター事業費			会計コード	001	款	03	項	01	目	09	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	身近な総合相談窓口として、高齢者の相談受付・訪問活動などを通じ生活や介護に不安を持つ高齢者及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、必要な支援やサービスが迅速かつ適切に提供されるように調整を行う。 本事業は、今後の高齢者介護の中心の課題となる「認知症高齢者」への対応として、認知症相談医の周知や専門医との連携を行うものである。 なお、本事業は、「高齢者に関する相談及び支援事業」に包含されている事業である。												
現状と背景 （どうして）	高齢者及び高齢者を抱える世帯は、生活・介護上の不安など多くの悩みや問題をかかえている。高齢者が望む「生まれ育った地域での生活・在宅介護」を実現するためには様々な支援が必要であり、それらに迅速・適切に対応するためには実態把握が必要である。												
目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	受益者 宮川・金沢地区にお住まいの支援を必要とする高齢者及びその家族（介護者）											
	対象 （ 直 接 働 き か け る ）	同上											
手段・方法 （ ど う や っ て ）	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	相談・訪問を通じ、高齢者本人及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、それらに迅速・適切な対応を行うことで、安心して地域・在宅での生活を送ることができるよう支援する。											
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の抱える問題やニーズを把握するため、窓口及び訪問による相談・情報提供を行う。</li> <li>・把握した問題に応じた適切な対応を検討し、ニーズにあったサービスの紹介・事業者の情報提供・サービス利用に至るまでの調整を行う。</li> <li>・関係諸機関や事業者との情報交換・連携を密に行い、共に問題解決する意識をもちながら、在宅生活の支援にあたる。</li> <li>・サービス導入後の状況把握を定期的に行い、対象者がより自立的、満足感を持って生活出来るよう支援する。</li> </ul>											
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
		高齢者及びその家族からの相談	相談件数	件	実際に電話や来所にて相談を受けた件数								
		高齢者及びその家族への訪問	訪問件数	件	実際に訪問をした件数								
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値			
		サービスや方針が決定された件数	方針決定率	%	方針決定件数÷相談・訪問件数					100			

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算 又は決算額）	平成28年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ ）	事業費等 (a)	円						
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円						
	一般財源	円						
職員数	正規職員	人		0.80	0.80	0.80		
	嘱託職員	人						
臨時職員	臨時職員	人		0.20	0.20	0.20		
	合計	人		1.00	1.00	1.00		
対象（者）数	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
単 位 コ ス ト	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—	
	受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	市民一人当たりのコスト	円	—	—	—	—	—	
	相談件数	目標 実績 達成率	件 %	— — —	339 — —	393 — —	395 — —	— — —
訪 問 件 数	訪問件数	目標 実績 達成率	件 %	— — —	166 — —	274 — —	255 — —	— — —
	—	目標 実績 達成率	件 %	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
方 針 決 定 率	方針決定率	目標 実績 達成率	%	— — —	100 100 100.00	100 100 100.00	100 100 100.00	— — —
	—	目標 実績 達成率	%	— — —	— — —	— — —	— — —	— — —
備考	当該事業費は人件費であり、他の経費は特定できないため記載なし。							

事務事業名	医療機関との連携事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	03050110
担当部署	健康福祉部	西部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	清水 利恵	連絡先	82-0073

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価										
の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）						現 状 維 持	③	⑥	⑨
							縮 小	④	⑧	⑩
							休 廃 止	①		
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性										

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定  <b>B</b>			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					3						

評 価 課 題 （ C H E C K ）	高 齢 者 の 独 居 ・ 高 齢 者 世 帯 が 年 々 増 加 傾 向 に あり、対 象 者 の 増 加 に 伴 う 更 な る 市 民 ニーズ の 多 様 化 が 予 想 さ れ る。市 民 が 求 め て い る 事 や サー ビ ス に 対 し、民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 ・ 地 域 生 活 支 援 係 等 諸 団 体 と の 連 携 ・ 連 携 を い か に 密 に でき、提 供 で き る か が 課 題 で あ る。	記 号 の 定 義 A：計 画 ど お り 事 業 を 進 め る こ と が 適 当 B：事 業 の 進 め 方 に 改 善 が 必 要 C：事 業 規 模 ・ 内 容 ・ 実 施 主 体 の 見 直 し が 必 要 D：事 業 の 統 合、休 ・ 廃 止 の 検 討 が 必 要
	前 年 度 総 合 評 価 判 定	B
前 年 度 評 価 シート 整 理 番 号		03040110

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後		
	成 果 的 拡 充	②	⑤	レ	⑦
	現 状 維 持	③	⑥	⑨	
縮 小	④	⑧	⑩		
休 廃 止	①				
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					
改 革 ・ 改 善 策	介 護 保 険 の 対 応 以 外 の 高 齢 者 の 相 談 は 多 様 で あ る。独 居、高 齢 世 帯 の 増 加 で 様 々 な 諸 問 題 が あ る。民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 地 域 生 活 支 援 係 ・ 諸 団 体 と の 連 携 は よ り 必 要 で あ る。相 談 支 援 事 業 の 充 実 を よ り 強 化 し、在 宅 生 活 が 継 続 で き る よ う 取 り 組 ん で い く。	介 護 保 険 の 対 応 以 外 の 高 齢 者 の 相 談 は 多 様 で あ る。独 居、高 齢 世 帯 の 増 加 で 様 々 な 諸 問 題 が あ る。民 生 委 員 ・ 社 会 福 祉 協 議 会 地 域 生 活 支 援 係 ・ 諸 団 体 と の 連 携 は よ り 必 要 で あ る。相 談 支 援 事 業 の 充 実 を よ り 強 化 し、在 宅 生 活 が 継 続 で き る よ う 取 り 組 ん で い く。			

最終評価年月日	平成28年5月20日	最終評価責任者	西部保健福祉サービスセンター長	依 田 利 文
---------	------------	---------	-----------------	---------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	医療機関との連携事業	事業期間	平成 ~ 年度	整理番号	03060114
担当部署	健康福祉部	作成担当者名	両角英彦	連絡先	82-0107

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 01 第1章 お互いに支えあい、その人らしく暮らせるまちづくり		
			施策 04 第4節 認知症施策の充実			
			細施策 02 相談機関と医療サービスの充実			
			事務事業 05 医療機関との連携事業			
	予算事業名	中部保健福祉サービスセンター事業費		会計コード 001 款 03 項 01 目 09 事業 04		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	身近な総合相談窓口として、高齢者の相談受付・訪問活動などを通じ生活や介護に不安を持つ高齢者及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、必要な支援やサービスが迅速かつ適切に提供されるように調整を行う。 本事業は、今後の高齢者介護の中心の課題となる「認知症高齢者」への対応として、認知症相談医の周知や専門医との連携を行うものである。 なお、本事業は、「高齢者に関する相談及び支援事業」に含まれている事業である。				
	現状と背景 （どうして）	高齢者及び高齢者を抱える世帯は、生活・介護上の不安など多くの悩みや問題をかかえている。高齢者が望む「生まれ育った地域での生活・在宅介護」を実現するためには様々な支援が必要であり、それらに迅速・適切に対応するためには実態把握が必要である。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者（誰のために） 対象（直接働きかける） 意図 相談・訪問を通じ、高齢者本人及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、それらに迅速・適切な対応を行うことで、安心して地域・在宅での生活を送ることができるよう支援する。			
	手段・方法 （どうやって）	・個々の抱える問題やニーズを把握するため、窓口及び訪問による相談・情報提供を行う。 ・把握した問題に応じた適切な対応を検討し、ニーズにあったサービスの紹介・事業者の情報提供・サービス利用に至るまでの調整を行う。 ・関係諸機関や事業者との情報交換・連携を密に行い、共に問題解決する意識をもちながら、在宅生活の支援にあたる。 ・サービス導入後の状況把握を定期的に行い、対象者がより自立し満足感を持って生活出来るよう支援する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		高齢者及びその家族からの相談	相談件数	件	実際に電話や来所にて相談を受けた件数	250
	高齢者及びその家族への訪問	訪問件数	件	実際に訪問をした件数	90	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	サービスや方針が決定された件数	方針決定率	%	方針決定件数÷相談・訪問件数	100	

項 目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円						
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円						
一般財源	円						
職員数	人	0.14	0.16	0.16	0.16		
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.14	0.16	0.16	0.16		
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	-	
活動指標	相談件数	目標	220	297	251	250	250
		実績	220	297	251	250	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	訪問件数	目標	120	180	175	90	90
実績		120	180	175	90		
達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-	
成果指標	方針決定率	目標	100	100	100	100	100
		実績	100	100	100	100	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	-
	目標	-					
実績	-						
達成率	%	-	-	-	-	-	

備考 当該事業費は人件費であり、他の経費は特定できないため記載なし。  
市民プランの細施策において横断的な事務事業である。  
対象細施策の政策体系番号01010401、01011101、01040102、01040401、03050302

事務事業名	医療機関との連携事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	03060114
担当部署	健康福祉部	中部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	両角英彦	連絡先	82-0107

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価											
の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					今 後 の 方 向 性	成 果 拡 充		②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）						現 状 維 持		③	⑥	⑨
							縮 小		④	⑧	⑩
							休 廃 止	①			
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性											

評価年度	当年度
------	-----

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					4						4

評 価 課 題 （ C H E C K ）	課題	独居高齢者・高齢者世帯が年々増加傾向にあり、対象者の増加に伴う更なる市民ニーズの多様化が予想される。市民が求めている事やサービスに対し、民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係との連絡・連携等をいかに密にでき、提供できるかが課題である。										記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
	前年度総合評価判定											A	

改 革 ・ 改 善 策 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	成 果 拡 充		②	⑤	レ	⑦	成 果 拡 充				レ	
	現 状 維 持		③	⑥		⑨	現 状 維 持					
縮 小		④	⑧		⑩	縮 小						
休 廃 止	①					休 廃 止						
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性												
改 革 ・ 改 善 策	今 後 の 方 向 性	介護保険の対応以外の高齢者の相談は多様である。独居、高齢世帯の増加で様々な諸問題がある。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係・諸団体との連携はより必要である。相談支援事業の充実をより強化し、在宅生活が継続できるよう取り組んでいく。					介護保険の対応以外の高齢者の相談は多様である。独居、高齢世帯の増加で様々な諸問題がある。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係・諸団体との連携はより必要である。相談支援事業の充実をより強化し、在宅生活が継続できるよう取り組んでいく。					

最終評価年月日	平成28年4月27日	最終評価責任者	中部保健福祉サービスセンター長	保科実早子
---------	------------	---------	-----------------	-------

平成27年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

一般会計【茅野市】

事務事業名	医療機関との連携事業			事業期間	平成	～	年度	整理番号	03070116				
担当部署	健康福祉部	北部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	伊藤 浩 幸			連絡先	77-3000				
計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	01	第1章 お互いに支えあい、その人らしく暮らせるまちづくり							
				施策	04	第4節 認知症施策の充実							
				細施策	02	相談機関と医療サービスの充実							
				事務事業	05	医療機関との連携事業							
	予算事業名	北部保健福祉サービスセンター			会計コード	001	款	03	項	01	目	09	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	身近な総合相談窓口として、高齢者の相談受付・訪問活動などを通じ生活や介護に不安を持つ高齢者及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、必要な支援やサービスが迅速かつ適切に提供されるように調整を行う。 本事業は、今後の高齢者介護の中心の課題となる「認知症高齢者」への対応として、認知症相談医の周知や専門医との連携を行うものである。 なお、本事業は、「高齢者に関する相談及び支援事業」に包含されている事業である。												
現状と背景 （どうして）	高齢者及び高齢者を抱える世帯は、生活・介護上の不安など多くの悩みや問題をかかえている。高齢者が望む「生まれ育った地域での生活・在宅介護」を実現するためには様々な支援が必要であり、それらに迅速・適切に対応するためには実態把握が必要である。												
目的	対象	受益者 （誰のために）	湖東・北山地区にお住まいの支援を必要とする高齢者及びその家族（介護者）										
	対象	対象 （直接働きかける）	同上										
的 意 図 （どんな状態にしたいか）	相談・訪問を通じ、高齢者本人及び高齢者を抱える世帯のニーズを把握し、それらに迅速・適切な対応を行うことで、安心して地域・在宅での生活を送ることができるよう支援する。												
	手段・方法 （どうやって）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の抱える問題やニーズを把握するため、窓口及び訪問による相談・情報提供を行う。</li> <li>・把握した問題に応じた適切な対応を検討し、ニーズにあったサービスの紹介・事業者の情報提供・サービス利用に至るまでの調整を行う。</li> <li>・関係諸機関や事業者との情報交換・連携を密に行い、共に問題解決する意識をもちながら、在宅生活の支援にあたる。</li> <li>・サービス導入後の状況把握を定期的に行い、対象者がより自立的、満足感を持って生活出来るよう支援する。</li> </ul>											
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		高齢者及びその家族からの相談	相談件数	件	実際に電話や来所にて相談を受けた件数								
		高齢者及びその家族への訪問	訪問件数	件	実際に訪問をした件数								
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		サービスや方針が決定された件数	方針決定率	%	方針決定件数÷相談・訪問件数				100				

項	目	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度（予算又は決算額）	平成28年度事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円					
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円					
職員数		人	0.03	0.03	0.03	0.03	
	正規職員	人					
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人	0.03	0.03	0.03	0.03	
	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	-	-	-	-	-
活動指標	相談件数	目標	件				
		実績	件	3	4	4	20
	訪問件数	目標	件				
		実績	件				
	-	達成率	%	-	-	-	-
		目標	件				
-	実績	件					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	方針決定率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100	100
	-	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
		目標	件				
-	実績	件					
	達成率	%	-	-	-	-	
備考	当該事業費は人件費であり、他の経費は特定できないため記載なし。						

事務事業名	医療機関との連携事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	03070116
担当部署	健康福祉部	北部保健福祉サービスセンター	地域福祉推進係	作成担当者名	伊藤 浩幸	連絡先	77-3000

四 半 期 と の 管 理	期	目 標	実 績	課 題
	第1期			
	第2期			
	第3期			
	第4期			

事 中 評 価

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）		現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
			休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度 当年度

評 価 課 題 （ C H E C K ）	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4			レ		3					4	
	課 題	高齢者の独居・高齢者世帯が年々増加傾向にあり、対象者の増加に伴う更なる市民ニーズの多様化が予想される。市民が求めている事やサービスに対し、民生委員・社会福祉協議会・地域生活支援係等諸団体との連絡・連携等をいかに密にでき、提供できるかが課題である。												記 号 の 定 義			
													A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要				
	前年度総合評価判定																
	前年度評価シート整理番号																
総 合 評 価	細 施 策 評 価 前						細 施 策 評 価 後										
	核家族化の増大、独居・高齢世帯の増加に伴い、高齢者を取り巻く問題は多様化している。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係等の諸団体との連携を密にし、支援を必要とする高齢者の把握等事業のさらなる充実・資質向上が必要である。						核家族化の増大、独居・高齢世帯の増加に伴い、高齢者を取り巻く問題は多様化している。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係等の諸団体との連携を密にし、支援を必要とする高齢者の把握等事業のさらなる充実・資質向上が必要である。										
	前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性										

改 革 ・ 改 善 策 （ A C T I O N ）	今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦		成 果 的 拡 充				
		現 状 維 持	③	⑥	⑨	レ	現 状 維 持			レ	
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小				
		休 廃 止	①			休 廃 止					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
		介護保険の対応以外の高齢者の相談は多様である。独居、高齢世帯の増加で様々な諸問題がある。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係・諸団体との連携はより必要である。相談支援事業の充実をより強化し、在宅生活が継続できるよう取り組んでいく。					介護保険の対応以外の高齢者の相談は多様である。独居、高齢世帯の増加で様々な諸問題がある。民生委員・社会福祉協議会地域生活支援係・諸団体との連携はより必要である。相談支援事業の充実をより強化し、在宅生活が継続できるよう取り組んでいく。				

最終評価年月日 平成28年4月12日 最終評価責任者 北部保健福祉サービスセンター長 牛山 隆